

NO MUSIC,NO LIFE

校 長 武井 正明

ふと、中三時代の卒業式直後に戻ってきた教室を思い出した。

担任の進先生が「これから先、全員が揃うことは、きっとありません。これから私が皆に握手して回るので、みんなも続けてください」と仰った。進先生は普段から、感情を込めたような言い方はしない。いつも通り、サラッとそう言って生徒に考えさせる。

そして進先生は、窓際の一番前の女子生徒から順に握手して、ひとりひとり言葉を交わして進んでいった。

私は当時、その意味についてよくわからず、先生も面白い事させるなあ、ぐらいにしか思わなかった。気の利いた女子が「頑張ってるね」なんて言ってくれて「おまえもな」なんてカッコつけた記憶がある。

今なら進先生の気持ちがわかる。人生は出逢いと別れの繰り返しなのだ。

3年生の歌を聴いてきて思う。

もう、そういうことを理解している生徒が（女子に多いね）既にいっぱいいるな、と。

特に来春卒業する君たちにとって、音楽祭の合唱というのは、単なる合唱ではない。

もうきっと、これからの人生で、みんなで何かを創り上げることは、そうないのだ。

君たちは合唱で「思い出」を作っているのだ。合唱練習での、何気ないひとときを思い出す瞬間が、あなたのこれからの人生で、きっと訪れる。

それは、今回ステージに立てないあなたも同じ。

あなた自身の中学時代とは何だ？

苦しいか。苦しいだろう。でもその苦しい自分を否定しちゃいけない。それも肯定するあなたであってほしい。

私は高校時代が最も苦しかった。楽しいことなど何もなかった。でも今になって思い出すのは、あの苦しかった、かわいそうだった、真っ暗闇の高校時代ばかりだ。

今では、あの時の自分が愛おしくさえある。昔の自分に会えたら「大丈夫だよ」と抱き締めてあげたい。

だから明日は、今のあなただけの、吉中音楽祭を感じてほしい。

合唱曲を感じながら、今の親友を、いなければこれから出逢うであろう、未来の親友を想像しながら聴いてほしい。今この中学時代も大事なあなたの青春なのだから。

苦しい時、寂しい時、泣きたい時、音楽は人を慰め、救い、励ましてくれる。

音楽なしの人生なんて、考えられない。それを明日、君たちから教えてもらおう。